

## 平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果について

「平成 28 年度全国学力・学習状況調査」が 4 月に市内小・中学校 17 校で実施されました。安曇野市教育委員会では、今後の教育施策や教育活動に役立てるため、市校長会と学力向上推進委員会を組織し、結果の分析を行いましたので、その概要を報告します。

### 調査の概要

- 調査の名称 平成 28 年度全国学力・学習状況調査
- 実施日 平成 28 年 4 月 19 日(火)
- 実施学年 小学校 6 年生(10 校、856 人)、中学校 3 年生(7 校、890 人)
- 調査の内容
  - ①教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
    - (ア)主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A]
    - (イ)主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B]
  - ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

<平均正答率の概要>

#### 【全国・県の平均正答率に対する比較の目安】

記号	意味	正答率の差
☆☆☆	(大きく上回っている)	4.0 以上
☆☆	(上回っている)	2.0 ~ 3.9
☆	(少し上回っている)	1.0 ~ 1.9
○	(ほぼ同じ)	±0.1 ~ ±0.9
▽	(少し下回っている)	-1.0 ~ -1.9
▽▽	(下回っている)	-2.0 ~ -3.9
▽▽▽	(大きく下回っている)	-4.0 以下

「☆☆☆(大きく上回っている)とは」・・・

教科に関する調査の結果について、次表では、「☆」「○」「▽」などの記号を用いて表現しています。これは、上記表に基づく基準で、それぞれの意味があります。たとえば、全国の正答率が 80.0、安曇野市の正答率が 84.0 だった場合、別表に基づき、正答率差が 4.0 以上となり、「記号・・・☆☆☆、意味・・・大きく上回っている」となります。

【小学校 国語A】

内 容	県との比較	国との比較
国語A全体	○	☆
話すこと・聞くこと	○	☆
書くこと	▽▽	▽
読むこと	☆☆	☆☆
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	☆

【小学校 国語B】

内 容	県との比較	国との比較
国語B全体	○	☆
話すこと・聞くこと	○	☆
書くこと	○	☆
読むこと	○	☆
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		

【中学校 国語A】

内 容	県との比較	国との比較
国語A全体	☆	☆☆
話すこと・聞くこと	☆	☆
書くこと	☆	☆
読むこと	☆	☆
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	☆	☆☆

【中学校 国語B】

内 容	県との比較	国との比較
国語B全体	☆☆	☆☆
話すこと・聞くこと		
書くこと	☆☆	☆☆
読むこと	☆☆	☆☆
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		

【小学校 算数A】

内 容	県との比較	国との比較
算数A全体	▽▽	▽▽
数と計算	▽▽	▽▽
量と測定	▽	▽▽
図形	▽▽	▽
数量計算	▽▽	▽▽

【小学校 算数B】

内 容	県との比較	国との比較
算数B全体	▽	▽
数と計算	▽	▽
量と測定	▽	○
図形	○	▽
数量計算	▽	▽

【中学校 数学A】

内 容	県との比較	国との比較
数学A全体	☆☆	☆
数と式	☆☆	☆
図形	☆☆	☆☆
関数	☆☆	☆
資料の活用	☆☆	☆

【中学校 数学B】

内 容	県との比較	国との比較
数学B全体	☆☆	☆☆
数と式	☆☆	☆
図形	☆☆	☆
関数	☆☆	☆☆
資料の活用	☆☆	☆☆

## 国語や算数・数学の学力状況

### ● 傾向と課題

各教科・各領域の平均正答率をみると、過去3年続いて中学校の国語Bの結果は、全国より少し下回っていましたが、本年度は県・全国よりも上回り、中学校のどの領域も県・全国を上回る結果になりました。

一方、小学校において国語については例年とほぼ同じだったものの、国語の「書くこと」の領域や算数については全国や長野県を下回る結果となり、課題があることが分かりました。この課題を単年度のみの特異例と捉えるのではなく、児童質問紙の回答や日常の学習及び生活の状況等と関連させながら分析をし、全校の課題として改善策・予防策を講じる必要があります。

また、安曇野市の学力・体力向上4カ年計画において力点を置いている児童生徒質問紙の各設問についての回答状況は、結果との間に高い相関があることが一層明確になりました。さらなる定着と深化を図る必要があります。

無解答率の経年を比較してみると、「国語の問題について、解答を文書で書く問題がありました。どのように解答しましたか」という質問に対して「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた安曇野市の児童・生徒の割合を全国平均と比べると小学校では国語はほぼ同じ、算数は下回る傾向にあり、中学校では、国語は少し上回り、数学は上回る結果となり、学力調査の全体結果と同じような傾向を示しています。

### 【小学校の傾向と課題】

国語では、言語についての知識・理解や技能については、おおむね身につけていると思われます。しかし、「書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する」ことを問う設問、「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する」ことを問う設問、「グラフを基に分かったことを的確に書く」ことを問う設問、「目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く」ことを問う設問など、書く問題では正答率が低い結果となっています。文章の内容、図表やグラフなどから読み取った事柄を、質問の「条件」に合わせて書けるように指導していくことが必要であると思われます。

算数では、全ての領域において全国、県の平均を下回っています。特に、「1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している」ことを問う設問では、昨年と同様に課題がみられました。また記述式の問題は無解答率が他の問題よりも非常に高く、理由や説明を書くことに課題がみられました。したがって、問題場面でみいだした考えを活用したり発展的に考察したりする、数学的な思考・表現力を高める指導が一層必要であると思われます。

## 【中学校の傾向と課題】

国語では、基礎的な知識・理解や技能などはおおむね定着していると思われます。特に言語についての知識・理解・技能に関する問題の平均正答率は国の平均正答率を上回っており、家庭学習を含めた言語に関する学習の成果が現れていると思われます。しかし、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」ことを問う設問では、特定の慣用句における平均正答率が低い結果になりました。さまざまな言葉を身につけるための、多くの文章に触れる機会を設けることが必要だと思われます。

数学では、基本的な計算技能はおおむね身につけていると思われます。また、4領域の長野県の平均正答率との比較では、A問題、B問題すべてにおいて上回る結果となりました。また、全国の平均正答率との比較では、A問題、B問題ともに「少し上回る」か「上回る」という結果となりました。一方、A問題の「資料の活用」領域の設問は県より下回り、全国より大きく下回りました。近似値と誤差の意味理解が十分に深まっていないようなので、この単元の学習活動をしっかり位置づける工夫が必要であると思われます。また、数学的に表現したり説明したりする問題では、無回答率が県や全国よりは低いものの他の問題より高い結果になりました。数学的な思考・表現力を高める指導がさらに必要であると思われます。

## 生活環境や学習状況

### ● 傾向と課題

小学校・中学校ともに生活環境や学習状況について回答する児童生徒質問紙の幾つかの項目で、全国や長野県と同じかまたはよい傾向がみられます。中でも「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある」「学校のきまり(規則)を守っている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」などは、今後も大切にしていきたい安曇野市の児童生徒のよい傾向です。また、朝食を毎日食べることや起床就寝の時間を一定させることも例年同様よい傾向がみられます。

## 【小学校の傾向と課題】

基本的な生活習慣が定着しており、地域・家庭・学校それぞれの場面で誠実に関わろうとするよさがあります。「家の手伝いをしている」「友達との約束を守っている」の数値は全国や県に比べて高く、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」等の回答からは学校生活の充実ぶりがうかがえます。

一方、「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くこと」「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすること」「家で予習や復習をすること」に課題がみられ、授業における「めあて・ねらいの明確化」「主体的・

協働的な学びへの転換」「振り返り活動の充実」とともに、より一層の日常化を図る必要があります。

他に経年変化を注視している設問である「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」については、全国や長野県より使用時間が短い傾向が本年度もみられました。「携帯やスマートフォンをもっていない」割合は、全国を大きく上回っていますが県平均とほぼ同じで、年々減少傾向にあります。引続き学校や家庭が連携してネットのマナーや留意点、使用上の約束を確認する必要があります。

### 【中学校の傾向と課題】

「読書がすき」「人が困っているときは、すすんで助けている」「新聞を読んでいる」の割合は、国・県の平均に比べて高く、社会や人との関わりを大切にしようとしている様子がうかがえます。

「家で学校の宿題をしている」割合は、昨年度に引続き全国や県を大きく上回りました。しかし、「家で、学校の授業の予習をしている」と答えた生徒の割合は年々増加しているものの全国平均を大きく下回っています。「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」と答えた生徒の割合は、横ばい状態でこちらも全国を下回っており、家庭学習の内容や方法については引続き改善の取組が必要であると思われます。日々の授業において「めあて・ねらいの明確化」「主体的・協働的な学びへの転換」「振り返り活動の充実」に関わる設問に対する回答は、全国や県を大きく上回り、この点についての改善は定着してきているように思われます。

「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」では、2時間以上使用している生徒の割合は全国を大きく下回っています。「携帯電話やスマートフォンをもっていない」割合は全国を大きく上回っていますが県平均とほぼ同じで、年々減少傾向にあります。

「普段(月～金曜日)、1日当たりテレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間」は、長野県平均とほぼ同じで、全国より短い傾向があります。携帯電話やスマートフォンの使い方については、危惧される様々な状況を想定しながら、指導をしていく必要があります。

### 調査の今後の活用

安曇野市教育委員会と各校は、調査を通して把握した児童生徒の実態を教育施策や教育活動に役立てていくために、関係機関と連携しながら次のような取組を行います。

#### 教育委員会

- ① 全国学力・学習状況調査の分析からみえてくる児童生徒や学校の評価や課題を、

日々の教育活動に活かせるように支援していきます。

「学力・体力向上4カ年計画」の各校への定着を進め、指導主事の学校訪問等で日々の授業改善を支援します。

- ② 基本的な生活習慣や家庭学習の一層の定着を図るために、市校長会・市教育会・市PTA連合会と協働で作成した「家庭学習のすすめ」の理解と活用を進めていきます。
- ③ 授業や学校生活、家庭学習などにみられる教育課題に対応していくために、市校長会や市教育会と連携して、調査・研究を行ったり、小・中学校間の教職員の交流や研修などを推進したりしていきます。(資質向上研修8月4日実施)
- ④ 市費加配教員(市費により、教員の標準定数に加えて配置された教員)が個に応じた学習や指導方法の改善、学習効果を高めるために活かされるように、校長会とともに配置について検討していきます。

## 学校は

- ① 基本的な学校での学習や生活の習慣を形成するとともに家庭学習の定着のために、市教育委員会や家庭、地域と連携をしながら取り組んでいきます。また様々な機会を通して家庭に協力を呼びかけたり、支援をしたりしていきます。
- ② 児童生徒が、授業や学校生活、家庭学習などについて自分の課題を知り、自ら改善していくことができるように、児童生徒と各家庭へ具体的な指導・助言や支援を行っていきます。
- ③ 自校の傾向や課題を把握・分析し、指導内容や指導方法の改善に活かすようにしていきます。そのために、以下の点にも配慮します。
  - (ア) 有意に落ちている又は伸びている問題の分析をする。
  - (イ) 回答数が低い(0～2問程度)児童・生徒の分析をする。
  - (ウ) 当該学年、当該教科だけの課題にするのではなく、全校の授業改善の課題にするために、Q-UやCRTなどの調査や学力検査と関連付けて分析する。
  - (エ) 「家庭学習のすすめ」や各校の「家庭学習の手引き」活用の観点からも分析する。
- ④ 「児童(生徒)質問紙」や「学校質問紙」からみえてくる評価や課題を、日々の指導や教育活動に活かしていきます。

## 正答率が高い傾向にある子どもの生活の様子

学力調査結果と学習状況調査結果のクロス集計を分析すると、次に示す項目において「当てはまる」と答えた児童生徒の正答率が比較的高い傾向がみられました。

### 【小学校の例】

◇毎日、同じくらいの時刻に起きている。

- ◇学校に行くのは楽しいと思う。
- ◇先生は、あなたのよいところを認めてくれている。
- ◇いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- ◇家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする。
- ◇家の手伝いをしている。
- ◇家で、自分で計画を立てて勉強している。
- ◇難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。
- ◇人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ◇解答を文章で書いたり、説明したりする問題は、最後まで解答を書こうと努力した。

### 【中学校の例】

- ◇毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- ◇地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。
- ◇授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思う。
- ◇授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
- ◇授業で、生徒の間で話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う。
- ◇家で学校の宿題をしている。
- ◇読書は好きだ。
- ◇普段（月～金曜日）、1日当たりテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする時間が短い。
- ◇土曜日や日曜日など学校が休みの日に勉強をする時間が長い。
- ◇解答を文章で書いたり、説明したりする問題は、最後まで解答を書こうと努力した。